

第4回検討委員会での主な意見と対応方針について

番号	意見の内容	本市の対応方針
■「1.段階的対策方針の検討」について		
■「2.段階的対策計画の検討」計画降雨に対するハード対策について		
①	47排水区の整備計画を検討するにあたり、優先順位が必要なことはよくわかる。一方で、47排水区の具体的な地域名を公表され、10年経っても床下浸水が解消されないことになると、住民の不安は解消されない。このような資料を公開する時には、上手に説明しないと、不安の解消にならないので配慮していただきたい。	浸水の解消には膨大な費用と時間を要すことを知っていただき、あえて排水区の優先順位を公表し、ハード対策の限界に対する理解及び防災意識の啓発に向けた自助共助の促進を図ってまいりたいと考えています。 また、本計画のほかに、準用河川や側溝の整備などの浸水対策、既存施設の維持管理及び老朽化対策など、あらゆる手段により多層的に取り組みます。
②	本議題は、計画降雨規模における床下・床上浸水の話をしており、令和4に発生した計画規模を上回る降雨においては、被害状況が変化する。その点も周知の仕方を上手くしていただければ。	本計画を住民へ周知する際には、計画の概要版やリーフレットの作成を検討します。
■「2.段階的対策計画の検討」照査降雨(計画を上回る降雨)に対するハード及びソフト対策について		
③	グラウンド貯留の整備により、避難時にグラウンドが使えなくなることは問題であると考え。基本は徒歩避難であるが、高齢者は車で避難も考えらえる。今の小学校の先生方の駐車場では不足する際に、グラウンドに駐車することが考えられるため、配慮が必要と考える。	実施にあたっては、事業目的や対策効果を説明し、学校関係者や避難所指定に係る防災部局と協議・調整しながら進めます。
④	グラウンド貯留を進めるにあたり、各学校の生徒の意見も考慮してほしいと考えている。各学校で、グラウンド貯留に賛成や反対もあると思うので、対話が大事である。	
⑤	今回は低減効果を照査降雨のみで検討しているが、計画降雨で検討すれば、さらに効果が高くなると思う。計画降雨に対しては、照査降雨に比べて効果が高くなるということも住民にアピールしてほしい。 まだ準備期間があるので、詳細シミュレーションを実施し、住民に対策効果を見せながら進めてもらえれば。やっても意味がないというところでやりたいと言われた時の説明としても活用出来ると考える。	今回のシミュレーションの目的は、実施箇所ごとに対策効果が異なることから、箇所ごとの効果把握を踏まえた優先順位付けです。 実施にあたっては、関係者に事業目的や今回のシミュレーションで把握した対策効果を説明し、合意形成を図ります。 今後、技術開発研究により新たなシミュレーション手法が確立されましたら、計画見直しの中で取り入れていくことを検討します。
⑥	効果検証手法について、水田面積から流出しない条件としているが、その前提は、校庭や水田への貯留のピークが貯留できればということになる。少雨の場合に貯留されると、ピークの時点で満水になっていることも考えられる。少雨で貯留せずに、ピークに効かせる方策があれば良い。方策がないのであれば、対外的な説明は慎重にした方がよい。	
⑦	新潟県や石川県では、大きな出水を受けて流域治水の取組みを検討している。いずれの地域においても田んぼダムの効果の見込み方は様々であるが、どの地域も水田貯留に取り組む方向で進んでいる。富山県では、富山市が先導的に取り組んでいただければよいと考える。	

第4回検討委員会での主な意見と対応方針について

番号	意見の内容	本市の対応方針
■「3.財政計画の検討」について		
■「4.目標達成を評価する指標」について		
⑧	計画降雨の指標である床上浸水の解消割合について、計画が確実に進めば解消されるのであれば、5年ごとに詳細シミュレーションを実施する必要があるのか。	5年間でハード対策が完了しない場合、進捗確認のために都度詳細シミュレーションを実施することとなり、経済的とは言い難いです。 従って、「床上浸水の解消割合」から、進捗管理が容易な『ハード対策が完了した排水区の割合』に変更します。
■「5.富山市浸水対策基本計画マップ」について		
⑨	住民も一緒に取り組んでいることがわかるような工夫をしていただければ。達成度グラフのようなものがあると良いかもしれない。 一方で、対象外の地区に住んでいる住民にマップを示すことは懸念しなければならない。 浸水が徐々に減っていくというようなことが示せると良い。市役所だけでなく、住民や研究機関、防災士さんも含めて考えていければと思う。	本マップの作成目的は、今後10年間でハード対策を計画する排水区を示すものであり、住民などによる二次利用は想定しておりません。 頂いたご意見につきましては、ソフト対策の「内水ハザードマップの作成・公表」、「地域防災マップ作成支援」の中で検討させていただきます。
⑩	住民がマップを使って、効果的に身につくような使い勝手のよいマップになればと考える。わかりやすさは重要視してもらいたい。	
⑪	防災士会としても活用していきたい。富山市がマップで何を見てほしいのか、ということを明記してもらえれば、使う側もわかりやすくなる。 洪水であれば河川別に作成するような考え方もある。本マップでもエリアは分かれているが、施設整備による対策効果を示すなどの工夫があれば良いと考える。	
⑫	ソフト対策に「マップの活用」を追加し、例えば富山県立大学の大学生とワークショップを実施し、マップにこういった情報があると良いか議論してもらおう。 今のマップは専門家には良いが、市民には堅いイメージなので、ランドマークを入れるなど、バージョンアップし、うまくコミュニケーションが取れるツールになれば良いと考える。	